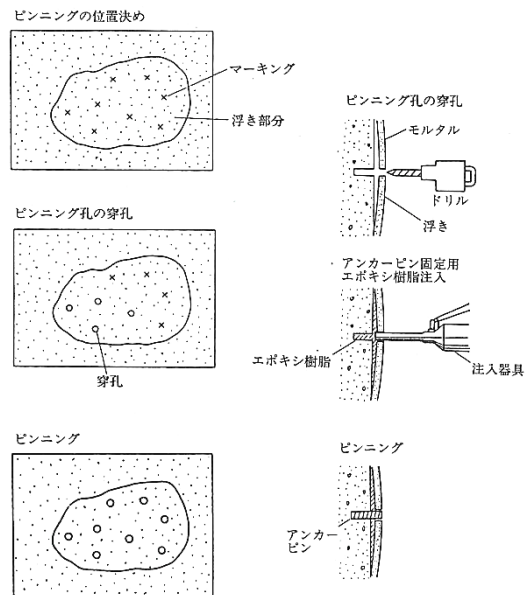
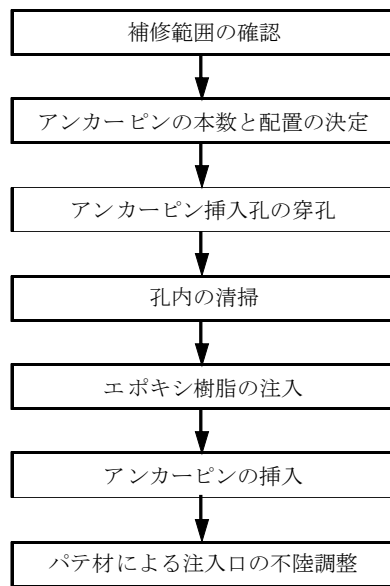


最終更新日 H25.3.1
改修技術 No. 11111501

性能分野	耐久性・耐用性
大分類	劣化部分の補修、外力の緩和
中分類	浮き、欠損及び剥落部の補修
技術の名称	タイル外壁等の補修（アンカーピンニング・注入併用法）

- ・タイル、モルタル塗り外壁の剥離・浮き等の不具合に対し、用いられる工法である。
①部分エポキシ樹脂注入工法、②全面エポキシ樹脂注入工法、③全面ポリマーセメントスラリー注入工法がある。
- ・剥離部分に対して等間隔に穿孔を行い、エポキシ樹脂やセメントスラリーを注入し孔内にアンカーピンを挿入する。使用するアンカーピンの種類には、全ねじステンレスピンや、注入口付きアンカーピンと呼ばれ、アンカーピン先端が孔内で拡張し、機械的に仕上げ層を躯体へ固定するものがある。また、エポキシ樹脂の注入をアンカーピン挿入孔から行う場合と、これ以外にエポキシ樹脂の注入孔を追加し、剥離部全面に樹脂を充填させる方法がある。
- ・アンカーピンニングと注入による工法では、エポキシ樹脂の接着力によりアンカーピンを介して仕上げ層を躯体に固定するため、削孔粉や樹脂の充填不良により接着効果が得られない場合には、剥落防止効果が得られない。なお、アンカーピンに注入口付きアンカーピンを用いる場合には、ピンの開脚により機械的に仕上げ層を固定するため前述の欠陥は起きにくい。
- ・タイル陶片の浮きには適用しない。

改修技術の概要



(出典：建築改修工事監理指針 平成 22 年版 (財) 建築保全センター)



挿入孔の穿孔



エポキシ樹脂の注入

(出典：マンション共用部改修工事＜事例集＞Vol12、(社) マンションリフォーム推進協議会)

- ・改修後の性能
仕上げ材の剥落防止

共同住宅のタイプごとの技術の適用	技術の種類	<input type="checkbox"/> 調査・診断技術 <input checked="" type="checkbox"/> 改修技術（ <input checked="" type="checkbox"/> 劣化を補修する技術 <input type="checkbox"/> 性能を向上させる技術）	
	共同住宅のタイプごとの適用可能性	S55年以前供給 中層階段室・壁式(総プロA1)	使われる可能性が相当ある
		S55年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)	使われる可能性が相当ある
		S56～H2年供給(総プロB)	使われる可能性が相当ある
		H3～12年供給(総プロC)	使われる可能性が相当ある
		H13年以降供給(総プロD)	使われる可能性が相当ある
(補足) —			
常にセットで利用される技術	<当技術を適用する前に実施する調査・診断技術> タイル等の浮きの調査 (No. 21111106)		
技術が適用される建物の部位	<input checked="" type="checkbox"/> 共用部分 (<input checked="" type="checkbox"/> 躯体・外壁 <input type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/> 建具 <input type="checkbox"/> 設備・配管等 <input type="checkbox"/> その他共用部) <input type="checkbox"/> 専有部分 (<input type="checkbox"/> 設備・配管 <input type="checkbox"/> その他専用部) [設置・運営等で建築基準法以外に注意すべき主な法令がある設備 () <input type="checkbox"/> 注意すべき主な法令 ()]		
団地で適用した場合のメリット	<input type="checkbox"/> 住棟まわりの土地が利用できること (仮設以外) () <input type="checkbox"/> まとまった土地が利用できること (仮設以外) () <input type="checkbox"/> 住宅の数が多く密度が高い () <input type="checkbox"/> 特定の設備があること ()		
足場の設置が必要	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要 ()		
工事による居住者への影響	数日以上居住できない住戸が発生	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 ()	
	一時的な影響が発生	<input type="checkbox"/> 断水などライフラインが一時的に利用不可 <input checked="" type="checkbox"/> 振動 <input checked="" type="checkbox"/> 騒音 <input checked="" type="checkbox"/> 粉塵 <input type="checkbox"/> 臭気 <input type="checkbox"/> その他専有部分又は専用使用部分に対する制限 ()	
	工事後に続く影響が発生	<input type="checkbox"/> 専有部分又は専用使用部分の使用に対する制限 () <input type="checkbox"/> 日照・採光等への影響 ()	
当該技術が利用される工事	<input checked="" type="checkbox"/> 計画修繕工事 (<input checked="" type="checkbox"/> 劣化の補修 <input type="checkbox"/> 性能の向上) <input type="checkbox"/> 耐震改修工事 (<input type="checkbox"/> 耐震性の向上 <input type="checkbox"/> 他の性能の向上)		
技術的境界	—		
参考資料	技術情報	・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成22年版」（財）建築保全センター ・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築改修工事監理指針 平成22年版」（財）建築保全センター	
	価格情報	・「マンション Re」（一財）経済調査会	